熊谷守一

Kumagai Morikazu

11月16日㈯から来年1月13日㈷まで

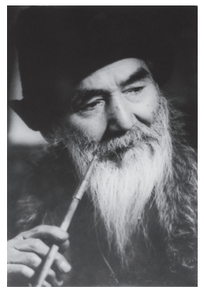
いのちを見つめて

Cherishing All Lives

久留米市美術館
KURUME CITY ART MUSEUM
ISHIBASHI CULTURAL CENTER

自然の生きるさまを描く

命あるものを真摯（しんし）に、愛情を持って観察し続けて描いた熊谷守一。身近な動植物を見つめる守一のまなざしに作品を通して迫ります。



熊谷守一肖像写真（提供：美術出版社）

【熊谷守一】
岐阜県出身。戦前は二科会を中心に発表を続けながら、二科技塾の講師を務めるなど後進の指導も行っていた。戦後には美術団体から離れる。また明確な輪郭線で縁取られた簡明な形態と色面を特徴とする「モリカズ様式」を完成。享年97歳

《豆に蟻》1958年 個人蔵

《薔薇》1971年 公益財団法人ひろしま美術館

《瓜》1964年
公益財団法人ひろしま美術館

《かまきりとひがん花》1958年 婦人之友社

長い画家人生の変容

久留米市美術館は、11月16日㈯から熊谷守一の企画展を開催。本展は油彩画を中心に、書や日本画、デッサンなど150点を紹介します。

守一は、久留米出身の洋画家・青木繁と東京美術学校（現東京藝術大学）の同級生。描き方について議論するなど、共に学ぶほどの親交がありました。

守一の作品には、見つめ続けたからこそ捉えられた生き物の一瞬の動作が、色彩と構図を入念に計算して描かれています。本展は東京美術学校時代の作品から、「モリカズ様式」の完成、晩年までの画風のゆるやかな変貌を見ることができます。

「モリカズ様式」をたどる

子どもの頃から絵を描くことが好きだった守一。黒田清輝らに指導を受け、アカデミックな絵を描く素養を身に付けました。1930年代には「モリカズ様式」の萌芽（ほうが）となる赤鉛筆の線を使った作品が登場します。以来20年をかけ、簡素な色彩とはっきりした輪郭の画風「モリカズ様式」が完成しました。

しかし、76歳の時に病に倒れ、50坪程度の自宅の庭で過ごすことが多くなります。庭には虫や草花などの小さな命があふれていました。守一は生き物たちが、自然のままに生きるさまを、ござに寝転がったりしながら見つめ続けました。こうして描かれた生き物たちの姿は、単純化されながらも特徴が強調され、今にも動き出しそうなほどです。

晩年は、色彩もより鮮やかになっていきます。守一の絵は80歳を越えてもなお、変化を続けました。

■日時 11月16日から来年1月13日㈷までの10時～17時。入館は16時30分まで。11月23日㈷、12月21日㈯は19時まで延長。入館は18時30分まで

■入館料 一般1000円、65歳以上700円、大学生500円、高校生以下無料。15人以上の団体割引あり

■休館日 月曜、12月28日㈯から来年1月3日㈮までの年末年始

問久留米市美術館（☎0942・39・1131、FAX0942・39・3134）

市美術館熊谷守一 いのちを見つめて へ
詳しくはQRコード

関連イベント

©2017「モリのいる場所」製作委員会

【映画上映会「モリのいる場所」】 熊谷守一と妻秀子の生活を描いた沖田修一監督の作品（2018年公開）を上映 **■日時** 11月21日㈭、24日㈰の14時～16時 **■会場** 中央図書館3階視聴覚ホール **■定員** 120人 **■料金** 無料 **■申し込み不要**

【ギャラリートーク】 **■日時** 土曜、日曜14時から20分間。11月24日㈰、12月7日㈯、21日㈯を除く **■会場** 美術館2階エントランス **■料金** 無料 **■申し込み不要。展覧会チケットが必要**